

意味がある。そう信じて会員一同現在もがんばっております。

そして、昨年は法式研修として「観音懺法」を勤めました。普段あまり行することがない法式です。

県外から講師に来ていただき、懺法の意味を確認し、そして深めるところから始め、進退においては慣らしを何度も繰り返ししました。

3月11日、東北地方太平洋沖地震がございました。「観音懺法」は3月16日に厳修する予定でした。

延期の話ももちろん出ました。しかし、今だからこそより強い思いを込めようという事で、予定通り行わせていただき、震災の犠牲になられた方の供養もさせていたできました。

こうした今まで行ったことのない活動をする際、また突然の事への対応をする際、かなりの反発が出るのではないかと心配していましたが、前向きな意見を多数いた



観音懺法

だき、我々会員の心には「歩歩是道場」という精神がきっちり備わっている、そのことを強く感じられました。この前を見据える姿勢こそが我々青曹青の一番の長所ではないかと思えます。

(副会長 霊泉寺住職 兜森忍道)

これからの課題

「今の青年僧は青年らしくない」これは昨年「青年僧へ今求めること」という趣旨で青年会

が県内ご寺院にアンケート行った際にいただいたご意見です。では青年らしいとはどういうことなのか？ 私なりの考えですが、青年の特権は失敗してもいい、多少の向う見ずがゆるされるということではないでしょうか。

以前「最近おりこうさんが多く

て疲れませんか？」というセリフのCMがありました。(確か桃井かおりさんが言っていたように記憶しておりますが…)私は青年僧同士で自分の考えをもっともつと出してぶつかっても良いのではないかと思うのです。研修会後の青年僧の懇親会でさえも自分の考えていることを口にすることが少ないような気がします。特に対社会において、自分もしくは僧侶としてどう関わっていくかという趣旨の発言は特に少ない気がしております。

私は現在青森県宗務所に書記として入って3期目で、諸先輩方の熱い意見を拝聴する機会も多いのですが、青年僧同士でそんなに熱い意見がでる場面はそうはありません。もつと青年僧同士熱く語りたい、仲良くなりたいたいという私の距離感が間違っているのかと不安です。とここまで書いて、ただの愚痴ではないかと気づき、恥ず

かしくなってきました。

青森県青年会のこれからの課題、これは各会員の課題でもあります。執行部が青年会での活動を考えて会員を引っ張っていくだけでなく、むしろ一人ひとりの平会員から、「あれやりたい。これやりたい。どうかと思ってる。自由に出て、それを集約し、実行に移すために執行部が存在する」。そのくらい活力ある青年会となつてほしいと望みます。

(会員 清涼寺副住職 柿崎宏隆)

今後に向けて

当県青年会80有余名の舵取りとして、微力ながら勤めさせていただきます。

全曹青にて委員

会活動に参加できたことを貴重な経験と捉えて、今後パイプ役となることで、会員も全曹青並びに東北地協との距離を身近に感じてもらえるように、連携を密にして支え合いを目指して参ります。様々な団体組織に身と置くと、喧々諤々と衝突しようとも、振り返ったときに「人脈」という大きな財産が残るはず。そう信じて次世代へ繋いでいく所存です。

合掌

(青森県曹洞宗青年会次期会長

普門院住職 白澤雪俊)



「さうとうお掃除し隊」

